

はねっと 2

仙台市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市民活動サポートセンター(サボセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

絵を描くことで人に出会い 出会うことから絵が生まれる

なり た まり な
現代美術家 **成田 真梨菜**さん(27)

成田真梨菜さんは、自身を“妄想エンジン全開娘”と名づけ、仙台を拠点に活動する現代美術家です。画材のキャンバスや立体物には、動物や大好きなスイカ、イチゴなどを色鮮やかに描きます。創作のテーマは「人間と動物の共存共栄」。成田さんは「人間も動物も1人では生きていけない。周り支え合って生きている姿を描きたい」と話します。

成田さんは、2009年に生活文化大学附属高等学校美術コースに進学し、翌年には河北美術展に入選。作品への評価を喜ぶ一方、学校生活では「人とうまく関われない」と悩んでいました。成田さんには発達障がいがあり「好きなことばかり話し続けてしまったり、人に話を合わせられなかったりする」と言います。ついに学校に行けなくなってしまった時、悩みを知る中本誠司現代美術館の館長から「個展をしてみたら?」と声がかかりました。挑戦した初の個展「妄想エンジン全開展」には、幼稚園の頃の先生、学校の先生、友だちが駆けつけました。新たな出会いからは次の企画へのオファーが舞い込み、現代美術家の道を決意しました。



▲新型コロナウイルスをテーマに描いた新作(取材時タイトル未定)
3月17日(水)~21日(日)まで、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアにて、成田さんの作品も展示される、アート・インクルージョン展が開催されます。主催する一般社団法人アート・インクルージョンは、国籍、性別、障がいのあるなしに関わらず、アートを通してあらゆる人が優しく包まれる社会の実現を目指しています。

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために外出を自粛。人づき合いが苦手な成田さんには快適に思えた環境でしたが、「人に会えないことが、だんだん寂しくなりました」と言います。「普段、美術展に行ったり、人に会ったりして、刺激を受けることで絵を描きたいと思えます。人に会うことは大事なことでした」と笑みを見せます。絵を通して多くの人に出会っていく成田さんの次の目標はニューヨークで個展を開くこと。成田さんは今日も絵筆を握ります。

妄想エンジン全開娘

成田真梨菜さんのアーティスト名。年齢に合わせて「妄想エンジン全開おばさん」「妄想エンジン全開おばあちゃん」と名前を変えてく予定。

最新情報はHPで
チェックできます▼





市民活動突撃レポート！

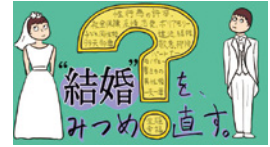
AWOW 共同代表 椎野 直さん

自分の人生に関わる性について、学生同士で話し合う

東北大学の学生サークルAWOWは「性を真面目にオープンに」をキャッチフレーズに、学生なら誰でも参加できる学習会を定期的に開催しています。学習会はZoomと対面を併用し開催。婚姻制度や、LGBT、大学内セクハラ、性的同意など、性にかかわる様々なテーマをもとに、参加者同士で語り合います。「私たちの世代は、性教育といえば生殖の知識や、中絶のリスクか受けてこなかった」と話すのはメンバーの椎野直さん。「根底には、“寝た子を起すな”の概念、つまり、子どもや若者にわざわざ性的好奇心を湧かせる情報を与える必要はないという考えが残っている」といいます。しかし「私たちに必要な性教育は、性行為から遠ざけられることでも、生殖の知識だけを教わることもなく、自分や相手を大事にするための幅広い学びではないか？」と疑問を投げかけます。

性の知識がなければ、性被害を受けても認識できず、自分の身を守ることができません。性行為の強要は、たとえ恋人・夫婦間でも暴力になることを知らなければ、気づかないまま性暴力の加害者や被害者になる場合もあります。多様な性のあり方を知らなければ、差別的発言からいじめに発展することも。

親しみやすいイラストで学習会への参加を呼びかけています▶



「豊かな人間関係を築き、性的局面で自らの行動を選択できるようにするための学びを、まずは自分たちが深め、周囲に伝えたい」といいます。同時に目指すのは、性のことを安心して話せる居場所です。「性は“いやらしいもの”とされてきたことで、疑問や悩みを言い出せない人がほとんど。否定されずに話せる環境のなかで、性を取り巻く現状を問い続けたい」と語ります。

東北大学 AROW/性について考えるサークル学習会の最新情報はTwitterでチェックできます▶



活動現場から、「このたびカタチになりました」

抱えている誰にも言えない悩み、話しに来てください

家庭問題、お金、人間関係などの悩みを相談できる「駆け込み寺」が、2020年9月、いろは横丁にオープンしました。相談員は、「話をして少し楽になったら、解決方法も見えてきます。まずは気軽に相談してください」と呼びかけています。

公益社団法人日本駆け込み寺仙台支部
 仙台市青葉区一番町2-3-28 いろは横丁90番
 TEL:070-4060-9862
 Mail:sendai.kakekomidera@gmail.com
 LINE ID:sendaikakekomi
 開所時間:13時~16時(水曜定休)
 ※予約相談の場合は時間外でも対応可能



サポセン蔵書から活動に役立つ書籍をご紹介します

買いものは投票なんだ EARTH おじさんが教えてくれたこと

みなさんは、洗剤、調味料、着る物などを買うとき、何を重視しますか？値段？味？流行…？本書は、46億歳の「EARTH おじさん」というキャラクターと一緒に、私たちが普段の生活で買うものが、地球にどんな影響を与えるのか考えることができる絵本です。健康的な生活や地球環境保全につながる買い物は、未来への投資であり、より良い未来につながる「投票」だと教えてくれます。

著者名:ほう(絵) 藤原ひろのぶ(文)
 発行所:株式会社三五館シンシャ



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 2月10日(水)、24日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
 日曜日・祝日 9:00-18:00
 休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

[ツイッター] @SCSC4CA

「ばれっと」バックナンバーは
 ホームページからダウンロードできます。



「ばれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行 仙台市市民活動サポートセンター
 (指定管理者: 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2021年2月1日

デザイン PEACE Inc.

「ばれっと」紙面についてのお知らせ

新型コロナウイルスの影響により、社会情勢の変化が著しい中、市民活動の現場で起こっている状況に柔軟に対応するため、2020年7月号より紙面構成を変更しています。引き続きご愛読よろしくお祈りします。